

HCM カウンセリングセミナー 2019 上級コース

■ 現場を持つ専門職としてカウンセリング・ケースワークを広げる ■

HCM カウンセリングセミナー	基本コース	奇数月の日曜日 10:00-17:00 年 6 回 定員 100 名 飯田橋レインボーホール
	上級コース	偶数月の日曜日 10:00-17:00 年 6 回 定員 100 名 飯田橋レインボーホール
	治療技法コース	偶数月の日曜日 10:00-13:00 年 6 回 定員 40 名 水道橋 東京学院ビル

カウンセリングセミナーには、(1) 基本コース、(2) 上級コース、(3) 治療技法コースの 3 つのコースがあります。基本→上級→治療技法の順で学んでいくように構成されていますが、参加者の経験に応じてどのコースからも受講可能です。その場合、上級は基本を、治療技法は基本と上級を学んでいることを前提に講義が進みますのでご注意ください。

I. 上級コースでは見立ての<基本 4 型>に、<上級 4 型>を加えて、全 8 型を完成させます

「見立て」とはクライアントの悩み・不適応の本質を分類することです。セミナーでは見立てを 8 つに分類します。この分類方法がセミナーの中心となる考え方<見立て 8 型メソッド>です。上級コースでは基本コースで学んだ<基本 4 型>に<上級 4 型>を加え<見立て 8 型>を完成させます。8 型に拡張することで現場でのほぼ 100% の事例に正しい見立てを作れるようになります。

<見立て 8 型メソッド> = <基本 4 型> + <上級 4 型>

全 8 型は次の通りです。 (青番号：<基本 4 型> 赤番号：上級コースで新しく学ぶ<上級 4 型>)

定型心理発達	1. 学童期 / 「成人学童期」の葛藤と不適応問題、その身体化症状
	2. 思春期の葛藤とその精神症状・行動化 (親子間葛藤=反抗期、摂食障害など)
	3. 成人期の葛藤とその精神症状 (うつ病・アルコール依存症など)
非定型心理発達	4. 被虐待者 (=「異邦人」) の葛藤とその精神症状 (反復性うつ病・解離性障害など)
精神障害の心理発達	5. 「軽度」知的能力障害・境界知能とその不適応問題
	6. 自閉症スペクトラム障害の症状・対人理解とその不適応問題
	7. 統合失調症・統合失調症型障害の症状・対人理解とその不適応問題
	8. 認知症・高次脳機能障害の症状とその不適応問題

II. 見立ての<全 8 型>を応用して、よく知られた疾病概念を見立て直します

「共依存」、「AC」、「境界性人格障害」、「自己愛性人格障害」、「双極Ⅱ型障害」、「バーンアウト症候群」など、精神医療やカウンセリングの現場でラベリングされることの多い疾患概念を取り上げ、その多くに見立ての誤りがあることを解明し、その歴史的背景を踏まえて解説します。そして、それらを見立ての<全 8 型>から再分類して理解を深めます。

III. 演習では、家族システムの理解とそれに係わる治療者 / カウンセラー自身の理解を深めます

- (1) 見立てを作る演習を一步進めて、夫婦がどんな「見立て」の組み合わせの時に、子にどんな心理発達の問題が引き起こされるかという視点を養います。これによって、家族システムの問題をより深く検討します。
- (2) 正確な見立てを作ることが、治療・カウンセリング・ケースワークを進めていくためにもっとも大切なことですが、上級コースでは、正確な見立てができた後の具体的な治療技法 (= 傾聴と助言のタイミング) について理解を深めます。それには、まずクライアントの葛藤に向き合う①治療者の「安定した心の位置」を体得しなくてはなりません。ついで実際の②助言の仕方 (してはいけない助言と、してはならない助言、及びその助言のタイミング) を学びます。

■ 講師 高橋和巳 野口洋一

- <基本 4 型>に加えて、新たな見立て<上級 4 型>を学びます (講義 12 時間)
- 誤ってラベリングされやすい疾患概念を<全 8 型>から見立て直します (講義 6 時間)
- <上級 4 型>の見立てについて、実際の「逐語録」で演習します (演習 18 時間)

■ 日時 全 6 回 偶数月の日曜日 午前 10 時～午後 5 時 講義 3 時間 + 演習 3 時間

■ 場所 飯田橋レインボービル JR 飯田橋駅 西口 6 分・地下鉄飯田橋駅 B3 出口 5 分

主催



受講のご案内

上級コースの日程と申し込み方法

■ **上級コース**の案内です。

■ **日時と場所**

■ **日程** 偶数月の日曜日（全6回）

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| ① 2月17日（日） | ② 4月21日（日） | ③ 6月16日（日） |
| ④ 8月18日（日） | ⑤ 10月20日（日） | ⑥ 12月15日（日） |

■ **時間** 午前10時～午後5時

講義3時間（午前）＋ 演習3時間（午後）

昼食：教室内で飲食ができます。ただし、ゴミは各自お持ち帰りください。

■ **場所** 飯田橋レイナービル 1F C+D 会議室（4/21 と 8/18 は 2F 中会議室）

JR 飯田橋駅 西口 徒歩6分 / **地下鉄飯田橋駅** B3 出口 徒歩5分

（裏表紙の地図を参照ください）

■ **参加資格**

カウンセリング、ケースワーク、医療、保健、福祉、介護、教育、他の相談業務などに関わる有資格の専門職の方。
（2018年までのセミナーに参加された方はそのまま継続して参加資格があります）

1. 医師・保健師・看護師・精神保健福祉士・社会福祉士・介護福祉士・臨床心理士・産業カウンセラー等、専門資格（公的資格、民間資格を問いません）をお持ちで、**守秘義務を十分に理解する方**。
2. 医学系・心理系・福祉系などの専門学校、大学の学生の場合は事務局で個別の許可を得てください。
守秘義務についての説明をさせていただきます。

■ **定員** 100名

原則として通年（全6回）参加です。定員に余裕がある場合に限り、各回毎にスポット参加を受け付けます。

■ **参加費用**

全6回（合計） **50,000円** *分割可（25,000×2回・・・1回目：11月～順次 / 2回目：5月）

スポット参加 **10,000円 / 1回**

支払方法：以下の②のメールでお知らせする指定口座にお振り込みください。

入金された参加費はお返しすることができませんのでご承知おきください。

また、**通年参加が前提のため、後半のキャンセルは受け付けません。**

■ **申し込み方法**

下記の HCM カウンセリングセミナー・ホームページ内の「セミナー開催情報」→「**セミナー 2019 申込フォーム**」からお申し込みください。（「セミナー 2019 申込フォーム」が利用できない方はメールでお問い合わせください）

申込受付期間：2018年11月1日（木）～ 定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。

申込後、事務局から、①申込受付メール（自動返信メール）と、

別途、②参加費振込のご案内メール（事務局担当者から5日以内）が届きます。

①あるいは②のメールが届かない場合は事務局までお問い合わせください。

※スマートフォンや携帯電話でのお申し込みも可能ですが、

その際は下記の事務局アドレスからのメールを受信できるように設定してください。

■ HCM カウンセリングセミナー・ホームページ

<http://hcm-seminar.net>

「HCM カウンセリング」で検索



■ E-mail : info@hcm-seminar.net

■ HCM 事務局（コスモスバード・カウンセリング内） 担当：興津・弓手

〒101-0037 東京都千代田区神田西福田町 2-7 DPM 神田ビル 4F

tel 03-6811-6858

時間割		講義と演習 見立ての<上級4型>を理解し、正しく見立てる									
-----	--	------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

	月日	講義 10:00-13:00	講師	演習 14:00-17:00	講師
1	2月17日	■ 1 学童期と「成人学童期」 (定型心理発達の心理) 1 学童期心理とその見立て 2 「成人学童期」の母親を持つ子の問題 (拒食症、不登校)	高橋	■ 演習Ⅰ. 「成人学童期」 ① 拒食症女児の母親の事例 ② 仕事上の悩みで身体症状を訴える 40 代男性の事例 1 拒食症と母子関係を理解する 2 「成人学童期」心理を理解する	高橋野口
2	4月21日	■ 2 統合失調症・統合失調症型障害 (精神障害の心理-1) 1 統合失調症の精神医学的理解 2 統合失調症型障害 3 双極性障害	高橋	■ 演習Ⅱ. 統合失調症 ① 初期介入事例 ② 慢性期カウンセリング事例 1 カウンセリング適否の判断と介入方法を知る 2 慢性期の心理を理解する	高橋野口
3	6月16日	■ 3 自閉症スペクトラム障害 (発達障害の心理) 含：広汎性発達障害 / アスペルガー症候群 1 自閉症スペクトラム障害 2 他の障害との鑑別の要点	高橋	■ 演習Ⅲ. 自閉症スペクトラム障害 ① 母と子、双方の面接事例 ② 知的能力障害との鑑別が問題となった事例 カウンセリングでの訴えや言葉から自閉症スペクトラム障害を理解する	高橋野口
4	8月18日	■ 4 認知症・高次脳機能障害 (精神障害の心理-2) 1 認知症・高次脳機能障害 2 その対応の要点	高橋	■ 演習Ⅳ. 脳機能障害 ① 高次脳機能障害患者の家族カウンセリング事例 ② 認知症事例 認知症（脳機能障害）の見立てとその心理を理解する	高橋野口
5	10月20日	■ 5 人格障害を見立て直す 1 人格障害の概念と論点の整理 2 人格障害の 10 類型をそれぞれ<全 8 型>から見立て直す 3 反社会性人格障害 / 行為障害	野口	■ 演習Ⅴ. 境界性人格障害診断の症例 ① 長期入院治療を受けた事例 ② 衝動的な暴力で外来通院を続けた事例 境界性人格障害と診断された事例を見立て直す	高橋野口
6	12月15日	■ 6 「共依存」・「AC」・「バーンアウト症候群」などを見立て直す 1 見立て 8 型からの再理解 2 アプローチの再考	野口	■ 演習Ⅵ. 予告なしの事例・応用演習	高橋野口

■ カウンセリング講義・精神医学講義

I. 見立ての<上級4型>を学び、<基本4型>と合わせて<全8型>を完成させます

定型心理発達「学童期」と「成人学童期」

定型心理発達は①幼児期→②学童期→③思春期→④成人期と進みます。基本コースで③思春期と④成人期を学びました。上級コースでは②学童期を学びます。学童期は、親や先生の倫理規範（生き方のルール）をよく理解して、それに従えるという発達段階です。この段階での子どもの悩み（葛藤）は精神症状ではなく、身体化症状（腹痛・抜毛・チック）や行動化として現れることはよく知られています。一方、暦年齢は成人に達していても心理的には学童期にとどまっている人がいます。当セミナーでは「**成人学童期**」と名づけています。「成人学童期」の症状もまた身体化症状や行動化が中心です。講義では、本来の学童期(子ども)の不応問題点を概観するとともに、「成人学童期」について詳しく学びます。親が「成人学童期」の場合、子にどんな心の問題が生じるかを、拒食症、不登校問題などを取り上げて検討します。

精神障害・発達障害の理解を広げます

① **統合失調症** 統合失調症は慢性・遺伝性の脳疾患で、前駆期、急性期、寛解期、慢性期と特徴的な経過をたどり、経過中にまったく異なる2つの症状、<陽性症状＝急性の幻覚妄想>と<陰性症状＝慢性期の生活障害>が現れます。2つが混同されると疾病の本質を見逃します。また、各症状に対する治療法と対応できる専門機関も異なります。脳疾患としての精神医学的理解、疾病による喪失体験という心理的理解、そして社会適応を維持し生活障害を支えていくための支援の方法を概説します。

② **自閉症スペクトラム障害（自閉症・広汎性発達障害・アスペルガー症候群など）** 自閉症スペクトラム障害は対人的相互関係・社会関係の質的な障害です。これは知的能力障害者の「幼い愛着関係と未熟な社会適応の様式」とは全く異なるものです。自閉症スペクトラム障害はその知的能力の程度によって、適応の様式やその問題の現れ方は大きく相違し、見立ての誤りを招くこともあります。講義では「知的問題がない」事例をとりあげて自閉症スペクトラム障害の本質を理解し、他の発達障害との鑑別の要点を示します。

③ **認知症・高次脳機能障害** 認知症・高次脳機能障害は脳の器質性疾患ですが、これらは発症するまでに一度は正常な心理発達を遂げ、成人として社会適応ができていた期間があるため、発病による能力低下が大きな「喪失体験」となります。発症は家族にも大きな心理的混乱と喪失をもたらす、家族の心理発達段階（<見立て8型>の組み合わせ）によっては支援・介護の中でさまざまな問題を生じさせます。家族のうつ病、高齢者虐待や障害者虐待などです。これらの関係を精神医学的、心理学的な視点から検討します。

II. 現場で「見立ての誤り」の多い疾患概念を取り上げ、<見立て8型>からこれを学び直します

誤解の多いラベリング、その中で下記の4つを取り上げ、<見立て8型>から学び直し、正しく見立てます。

人格障害を見立て直す

人格障害概念は、(1) 統合失調症の不全型、(2) ある特定の精神疾患とは関連づけられないが脳の器質的疾患が疑われているもの、(3) ある性格傾向が強調されたもの、などいくつかの疾病概念が並立したまま寄せ集められたものになっています（DSM-5では10類型）。これらを個々に見てみると、現場で実際に会える例はごく限られてくるのがわかります。また診断を精査すると、分析的な解釈に偏り、知的能力の評価が不十分で、見立て直しが必要な事例も少なくありません。人格障害10類型を再検証し<見立て8型>から見立て直します。

「共依存」・「AC」・「バーンアウト症候群」を見立て直す

「共依存」・「AC（アダルトチルドレン）」の概念は、嗜癮領域に限らず広く使われるようになっていますが、これらの事例を精査すると、異なる問題をないまぜにして表面的な「生き方の特徴」や「悩み方の特性」だけから見立てられていることがわかります。実際は、成人I期や被虐待者「異邦人」の葛藤の一側面、あるいは境界知能の不適切な対人関係の表れであることがわかります。また「バーンアウト症候群」もうつ病との異同が不明確なまま使われています。<見立て8型>からこれらを見立て直します。

セミナー 2019

講師紹介

参加者のプロフィール

■ 高橋 和巳氏

■ 精神科医 医学博士 1953 年生

■ 風の木クリニック院長（千代田区・麹町） <http://www.kazenoki.jp/>

慶應義塾大学文学部を中退、福島県立医科大学を卒業後、東京医科歯科大学にて睡眠脳波・大脳生理学・脳機能マッピング等の脳科学研究を行った。長く都立松沢病院に勤めて統合失調症などの精神科一般の診療の他、精神科救急やアルコール専門外来、家庭内暴力・拒食症・引きこもり等の家族問題に関わってきた。同院精神科医長を退職後は 2004 年に風の木クリニックを開業し診療を続けている。カウンセラーの教育のために当「HCM カウンセリングセミナー」、子ども虐待問題の理解のために「児童虐待防止 支援者のための講座」の講師を続けている。

著書に、『「母と子」という病』（ちくま新書）、『消えたい』、『子は親を救うために「心の病」になる』、『人は変われる』（ちくま文庫）、『新しく生きる』（三五館）、『私は悪い子？』（学習研究社）、『本当のうつ病』（佼成出版社）など多数がある。

■ 野口 洋一氏

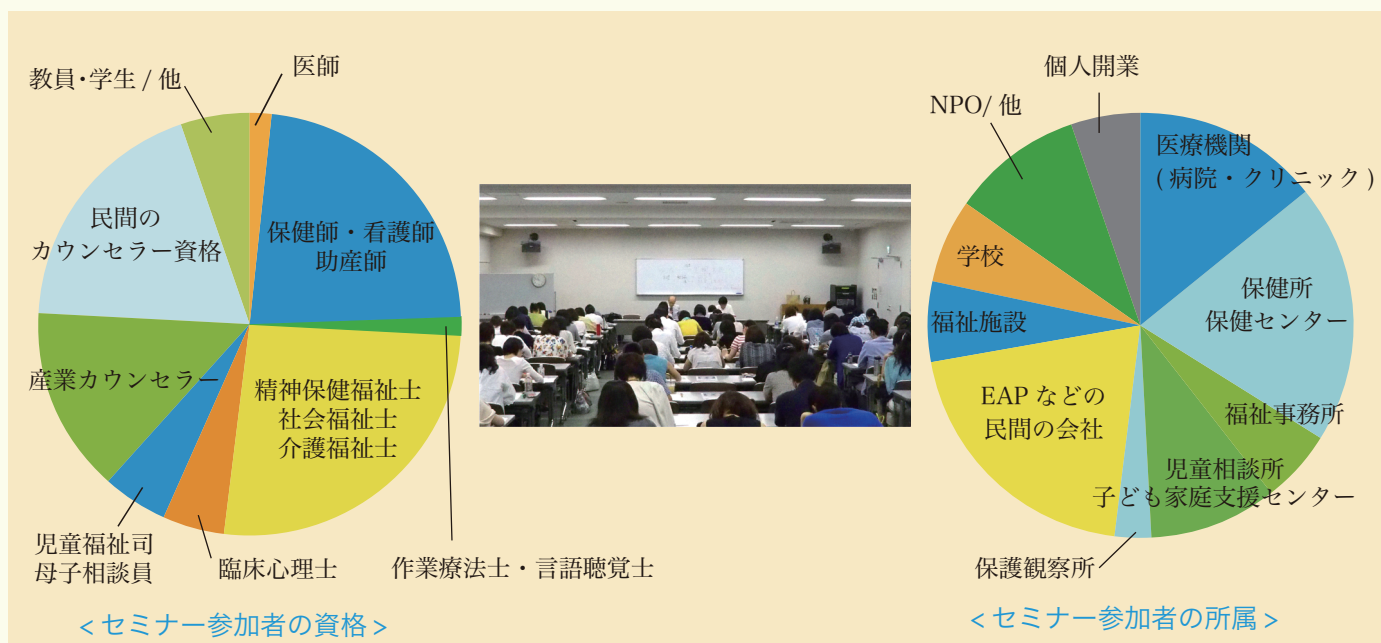
■ 心理カウンセラー 精神保健福祉士 1961 年生

■ あさくさばしファミリーカウンセリングルーム室長（台東区・浅草橋） <http://www.asakusabashi.net/>

早稲田大学、明治学院大学卒業。心理学、精神保健学、ソーシャルワーク等を学ぶ。栃木県立岡本台病院、大石クリニックに精神科ソーシャルワーカーとして勤務し、主に嗜癮関連問題、家族関係問題に取り組む。その後は 1998 年 4 月にあさくさばしファミリーカウンセリングルームを開業し、現在に至る。上記の他、引きこもりや摂食障害など思春期の問題や悩み、うつや育児不安など大人のメンタルヘルスに至る幅広い分野でカウンセリングやスーパーヴィジョンを行っている。プライベートプラクティスの他、現在、都立精神保健福祉センターにてアルコール関連問題・思春期問題助言者、江戸川区、大田区、北区、豊島区、目黒区、練馬区など各区の保健センターにて嗜癮問題、母子保健相談、事例検討会助言者など、公的相談事業にも出務している。著書に『家族の心理 変わる家族の新しいかたち』（金剛出版）がある（分担執筆）。

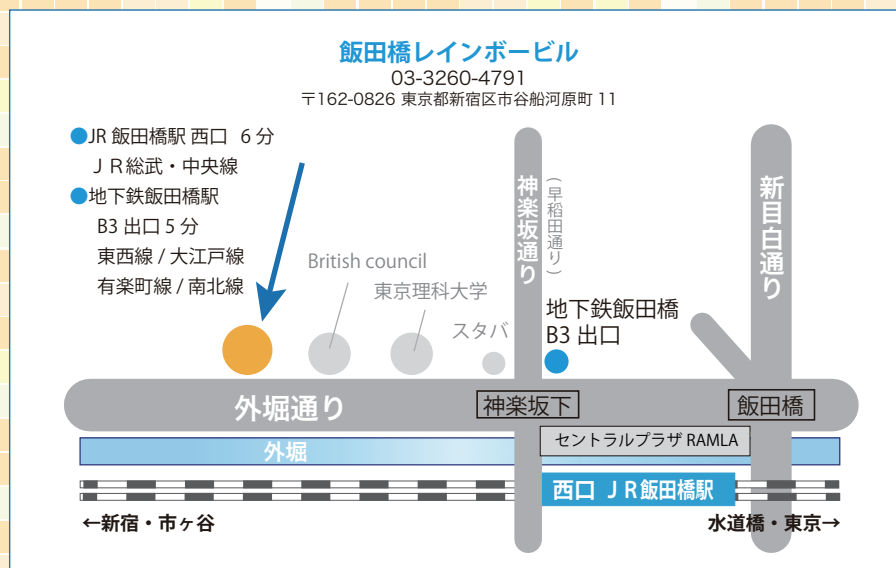
■ セミナー参加者のプロフィール

2013 年～2018 年の 6 年間のカウンセリングセミナー上級コースの参加者は計 434 名でした。参加者のプロフィール（資格と所属）を下記に紹介します。



セミナー会場 飯田橋レインボービル

JR 飯田橋駅 西口 6 分・地下鉄飯田橋駅 B3 出口 5 分



主催



専門家のためのカウンセリングセミナー

■ HCM 事務局 (コスモスバード・カウンセリング内)

■ 〒101-0037 東京都千代田区神田西福田町 2-7 DPM 神田ビル 4F
tel 03-6811-6858

■ <http://hcm-seminar.net>

■ E-mail : info@hcm-seminar.net